

2019春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス

No. 54

2019年 3月12日

日本鉄道労働組合連合会

J R E ユ ニ オ ン 第 2 回 団 体 交 渉

労働組合の存在意義・団体交渉の重要性を改めて訴える

J R E ユ ニ オ ン は 3 月 1 1 日、2019 春 季 生 活 闘 争 の 第 2 回 団 体 交 渉 を 行 い、賃金引き上げ・諸労働条件改善要求について協議した。

交渉で会社は、経営の先行きについて、「鉄道業におけるコスト管理、生産年齢人口の減少による需要の動向など不透明感が大きく、楽観視はできない」として、「会社の持続的な発展と社員・家族の幸せ実現にむけては、賃金改善のみならず働きがいの向上などさまざまな手法がある」との認識を示し、ベースアップ実施の可否については言及を避けた。また、諸労働条件改善要求については、従来の主張を繰り返し、前向きな回答は示されなかった。

一方 J R E ユ ニ オ ン は、「この間の社員の努力に報いることや社員・家族の幸せ実現には賃金・労働条件の改善が必要」として、会社に対して要求実現を求めるとともに、企業内における労働組合の存在意義を訴え、労使の真摯な議論の場である団体交渉の重要性を主張した。

J R E ユ ニ オ ン は、組合員の努力や会社業績を反映した回答を引き出すべく、取り組みを強化することとしている。